

## 当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

2019年3月14日  
株式会社ラクト・ジャパン

当社は、企業活動を通して人々の豊かな食生活に寄与し、事業の継続的な発展と企業価値の向上に努めています。そのための基盤としてコーポレート・ガバナンスを確立することは、経営上の最重要課題の一つであると認識し、2016年7月に「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」を制定・公表し、その実行を推進してまいりました。当基本方針第5章第20条では取締役会全体の実効性について、毎年各取締役の自己評価なども参考にしつつ分析及び評価を行う事を定めています。この定めに則り、この度、2018年度の分析・評価を実施いたしましたので、以下の通りその概要をお知らせいたします。

### 1. 分析・評価の方法

2018年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、全取締役7名及び全監査役3名が「取締役会評価に関する質問票」に基づき記名式にて自己評価を行いました。この評価結果は2019年3月の取締役会に報告され、議論を行いました。

### 2. 評価項目

取締役会評価に関する質問票の大項目は以下の通りです。

1. 取締役会の構成に関する質問（質問数2問）
2. 取締役会の準備・運営に関する質問（質問数8問）
3. 取締役会の活動に関する質問（質問数4問）
4. その他の質問（質問数1問）

質問数 計15問

### 3. 取締役会の実効性に関する分析・評価結果の概要

当社取締役会は、自己評価の分析の結果、取締役会の構成、運営状況（開催頻度、時間等）、取締役会における審議や報告の実施状況（自由闊達かつ建設的な議論となっているか等）ならびに業務執行に対する監督の状況（独立した客観的な立場からの監督等）の各方面において、取締役会の実効性は概ね確保されているものと判断いたしました。

一方で、今後更なる取締役会の実効性を高めていく観点から、以下の点について改善の余地があるとの指摘がありました。

- ・取締役会提出資料の更なる工夫（時系列での比較や表にする等）
- ・中期経営計画等の全社戦略や個別事業戦略など、経営戦略に関する議論を深めるための機会の充実

上記のご指摘に対し、取締役会の提出資料に関して、改善は進んではいるものの、更なる工夫を行いより分かり易い資料を作成し、審議に臨むよう改善の努力を進めてまいります。

また中期経営計画・経営戦略など経営戦略に関する議論の深化に関して、現状執行側での議論を基に取締役会にて検討・策定を行なっておりますが、今後は定期的な報告を含めて社外役員と執行側との報告や議論を行う機会を増やすなどの改善を行なってまいります。

#### 4. 今後の取り組み

当社取締役会は、今回の取締役会の実効性に関する分析・評価に関して、概ね実効性が確保されているという判断をいたしました。上記のような更なる改善に関する意見を踏まえ、当基本方針に基づき、引き続き取締役会の機能向上を図りより企業価値の向上に寄与するよう努めていくことを確認いたしました。社外役員に対する情報提供に関しては、引き続きより分かりやすい資料を工夫し内容を充実させることで、当社の事業に対する理解を深めていただき、社外役員がその専門性・経験・見識を十分に発揮できるよう努め、取締役会の実効性向上に引き続き取り組んでまいります。

以上